

THE 36TH ANNUAL MEETING OF THE
MOLECULAR BIOLOGY
SOCIETY OF JAPAN



第36回日本分子生物学会年会 最終日イベント プログラム

13:10~13:30, 15:30~16:00

生命科学でアートする

生命科学がいかにしてARTとなりうるかを、来場の皆さんと一緒に考えます。

13:30~15:30

SF Talk Show「2050年シンポジウム」

37年後の分子生物学会の様子をタイムマシンで覗きながら、未来の生命科学の方向性を考えるエンタメイベント。6人のパフォーマーが優勝を目指し、奇想天外なアイデアを披露します。BSフジ「ガリレオX」で録画放映予定。

16:00~17:30

Special Presentation「生命世界を問う」

第一線の生命学者によるTEDスタイルの公開講座。研究内容だけでなく、普段語られることのない、生き様・世界観を客席の皆さんにぶつけます。

日時 **2013年12月6日(金) 13:00~17:30**

会場 **神戸ポートピアホテル ポートピアホール**

問合せ **第36回日本分子生物学会年会事務局**

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-4 岩波書店一ツ橋別館4階(株エー・イー企画内)
Tel: 03-3230-2744 E-mail: mbsj2013@aeplan.co.jp

<http://www.aeplan.co.jp/mbsj2013/>

主催 特定非営利活動法人 日本分子生物学会 / 第36回日本分子生物学会年会組織委員会

共催 神戸市

協賛 (株)学研メディカル秀潤社 イルミナ(株) サントリーウエルネス(株)
ソーラボジャパン(株) ベックマン・コールター(株) カールツァイスマイクロコピー(株)
スパイパー(株) テカンジャパン(株) ライフテクノロジーズ・ジャパン(株)

医学・看護出版
Gakken 学研メディカル秀潤社

illumina®

SUNTORY

THORLABS

BECKMAN
COULTER

ZEISS

Spiber

TECAN.

life
technologies™

KBIC
KOBEL Biomedical Innovation Cluster

※BSフジのサイエンス番組「ガリレオX」の撮影カメラが入ります。当日は客席の様子も撮影します。特にステージに近い方はお顔も写る可能性がありますので、予めご了承いただけますようお願いいたします。テレビ放映は年明け第1回目を予定しております。

年会長よりご挨拶

科学研究の成果は、一夜にして社会を変えるほどの力を持っており、また、未知の自然法則の発見は、最高にわくわくする「宝探し」です。潜在的には、「情報コンテンツ」としての魅力は十分ですが、「研究成果の正確な理解」という大きな壁が存在し、一般社会の皆さんには、なかなかうまく伝わりません。2013年の日本分子生物学会年会では、この壁に真正面から挑戦します。第一線の研究者を集め「理解」と「楽しさ」の両方が伝わる、エンタイベントに仕上げました。生命科学のフロントラインを走る個性豊かな研究者の頭脳が繰り広げる世界に、驚き、共感し、そして笑っていただけることと思います。

第36回日本分子生物学会年会 年会長

近藤 滋 (大阪大学大学院生命機能研究科 教授)

プログラム

- 13:00 開会の挨拶
- 13:10 年会アート企画の紹介(1)と表彰式
- 13:30 SF Talk Show「2050年シンポジウム」
- 15:30 年会アート企画(2)の結果発表
- 16:00 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」(詳しくは、別パンフレットをご覧ください)

2050年シンポジウム出場者の横顔と意気込みをどうぞ。

No.1

池谷裕二(脳科学)



2050年の単純な脳、 複雑な私

日本を代表する脳科学者。活発な研究活動の傍ら、アウトリーチ活動にも意欲的で、最新の脳科学の知見をわかりやすく紹介する一般向けの書籍は、販売部数が10万部に迫るベストセラーが8冊あり、ほとんどの著書が中国語・韓国語・台湾語に翻訳出版されている。執筆活動を行う科学者には珍しく、専門内外ともに評価され、その活動スタイルは新聞紙上で「ネオ理系」と評されたこともある。

御本人からのコメント

「そもそも、どうして2050年の未来を私たちは想像できるのでしょうか。もちろんヒトに脳があるからです。脳科学者の参加こそこの企画にふさわしいはず。ですから、私が負けるはずがありません。」

No.2

堀川大樹(クマムシ博士)



宇宙生命インベイダー NK駆除のための クマムシと バイオテクノロジー

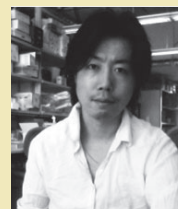
2001年からクマムシの研究を始める。2008年から2010年までNASAエイムズ研究室にてクマムシの宇宙生物学研究に従事。真空でも死なないクマムシの生態を解き明かしたことで、一躍有名研究者に。2011年からはパリ第5大学およびフランス国立衛生医学研究所に所属。ブログむしプロ。有料メルマガ「むしまが」を運営。最近、新潮社より、クマムシ博士の「最強生物学」講座、を出版。科学書籍のベストセラーになっている。

御本人からのコメント

「こんにちは。2050年分子生物学会年会長の堀川大樹です。みなさんご存知のように、現在、「宇宙生命インベイダー-NK」の攻撃により人類存亡の危機に瀕しています。NKの撲滅は科学者にとっての至上課題であります。我が「クマムシみらい研究所」でも惜きエイリアン、NKを殲滅すべく研究を重ねてきました。そしてついに、やつらを倒す方法を発見したのです。今回は、この研究成果について発表します。」

No.3

谷内江望(合成生物学)



ロボットクラウド バイオロジー研究所

ニュータイプの生物学者。慶応大学、ハーバード大学を経て、現トロン大学研究員。カナダ全土から科学技術分野の若手エリート研究者として選ばれた24名のハンティングフェローの一人。バイオインフォマティクスの分野で、計算機を使ったゲノム解析を極めた後に、実際に生物を使って、求める機能を持った生命体を作り出す「合成生物学」に転身。ドライとウエットの両方をこなす稀有な研究者である。当日のネタである「ロボットクラウドバイオロジー研究所」は、そんな彼が考える未来である。彼のトークは海外の学会やシンポジウムでも抜群のコミックタイムングを持ったキラートークとして圧倒的な支持を得ている。

御本人からのコメント

「未来を大きく動かす力は、はじめは小さくて荒削りでも大いに勇敢で何よりも言い出しっぺ本人が大きく突き動かされているアイデアからはじまります。私が提案するロボットクラウド研究所(仮)はシンプルなアイデアですが、ガチです。私たちのサ

No.4

高濱洋介(免疫学)



死に行くT細胞への レクイエム

徳島大学疾患プロテオゲノム研究センター・センター長。日本の免疫学をリードする著名研究者の一人。本業の傍ら、一般向けの活動にも積極的に参加。研究室HPのエッセイ集は読者が多い。また、免疫学者で構成されたロックバンド「ネガティブセレクション」のベーシストを務める。講演会では、未来の免疫学研究の主流は、ライブイメージングから、ライブパフォーマンスに移行したとして、バンドのメンツを引き連れ大暴れる予定。

御本人からのコメント?

「金に生きるは下品に過ぎる 出世に生きるはくたびれる 五十路を越えた七名の 気合いは現場で見届けよ。かかってごんかい!(冒頭「必殺必中仕事屋稼業」より)」

No.5

小澤龍彦(抗体工学)



最先端科学が提供する 合コンに代わる 新たな出会いの場

富山大学で免疫学を工学と結びつけて新たな医療を目指す変わり者。細胞を1個1個に分けて解析できるリンパ球チップを使ってヒトやウサギのモノクローナル抗体を作らせたら右にでる者はいない。この技術の可能性は非常に高く、将来的な応用を考えているうちに妄想が暴走。ついには、リンパ球チップを使った診断技術が、男女の愛情を正確に測定することができる可能性を見出し、急ぎ登壇することに。

御本人からのコメント

「2050年の生命科学は現在より遥かに進んでいるはずで、多くの問題、謎が解明されてしまっていることでしょう。しかし、科学で証明しては人生がつまらなくなる学問領域があります。男女の相性の問題です。なので内緒にしておきたかったのですが、御指名を受けたので仕方ありません。未来の合コンの姿をご覧にしましょう。お年寄りの審査委員の評価は知りませんが、若手層からの共感私独り占めでしょ。間違いないです。」

No.6

八代嘉美(再生医療)



iPSの広がる未来 (仮題)

専門は幹細胞生物学、科学技術社会論。造血幹細胞研究の経験と知識を基盤に、テレビ出演や講演、執筆を通じた再生医療や幹細胞研究のアウトリーチ活動を積極的に行っている。またサブカルチャーへの造詣も深く、科学的知識とSFなどの文学研究を混交した再生医療実現化後の生命観のありかたの研究も行う。著書に「増補iPS細胞、世紀の発見が医療を変える」「死にたくないですけど」など

御本人からのコメント

「未来の像、そして人間の本质を描くといえはSFのお家芸です。再生医療研究のメッカに所属し、日本SF作家クラブにも籍を置く私が負けるという要素が、いったいどこにあるのでしょうか。」